

Kyoto Design Award

2025

入賞 / 入選作品

KDA
design.
kyoto

公益社団法人
京都デザイン協会

京都デザイン協会は、第一線で活躍するデザイナー及びデザイン関係者を結集し、デザインを通じて京都の地域産業振興と、豊かな生活環境の形成に寄与することを目的として、1967年5月に京都デザイン協議会として発足、1979年に京都デザイン協会と改名、1981年に社団法人京都デザイン協会に移行し、2013年6月には公益社団法人京都デザイン協会の認可を受け活動を継続しています。

「京都デザイン賞」の入選作品は、2009年度の第1回以来、1200年以上の長きに亘る都市であり続けた、京都の歴史、伝統と文化に甘んじることなく、未来を見つめ柔軟な思考と緻密な計画により生み出される、新しい「京都的発想のデザイン作品・提案」を、発見、顕彰、そしてその良さを広報し、流通に載せる一助を担うことを目的として公募し、応募された作品・提案の中から、審査により厳選された優秀作品です。

第17回の今回は、112点の応募作品から、25点の入選作品を选出、その中から京都デザイン賞 大賞2点、京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞、京都新聞賞、課題部門5課題（一つの課題は該当作品なし）への各賞、学生賞（画箋堂賞）をそれぞれ1点ずつの选出を心がけました。大賞は第1～第5部門、第6部門から各1点を選出しました。

私たちは今後とも「京都デザイン賞」で选出した優秀な作品を、「京都発21世紀の大きな波」となることを願い、日本、世界へ向け発信していく所存ですので、より一層のお力添えをお願い申し上げます。

2025年11月

主催者代表 公益社団法人 京都デザイン協会

理事長 奈良 磐雄

K y o t o D e s i g n

審査委員長 木原三郎
公益社団法人 京都デザイン協会 理事
株式会社TAKAYASU 取締役 クリエイティブディレクター

審査副委員長 住谷晃也
公益社団法人 京都デザイン協会 理事
造園家／株式会社 杉景 代表取締役

本年度の特徴は、第6部門が極めて高品質であったと感じております。

今年は皆様ご承知の通り、万博に賑わった1年と振り返りますが、大賞の「大屋根リング」は日本の威信をかけたビッグプロジェクトであり、清水寺にも用いられた和の伝統技法を現代の技術で再現された、正に今年を象徴する建物だったのではないか。

他の建築作品も大小様々な作品に恵まれ、他年度ならば大賞だったであろう優品が目立ちました。

もう一つの大賞「ブランドデザイン」は大屋根リングとは真逆な作品性ながら、応募方法の変更を上手く利用された作品であり、グラフィックとパッケージの両面から審査対象となる広域な作品であり、第1部門は例年学生からの応募も多い部門なだけに、プロデザイナーの仕事として後進への良い手本で有ったと捉えております。

京都デザイン賞は本年度より応募方法を刷新した事で、初の海外応募もあり、今後は動きのある作品にも期待が膨らむ初年度であった様に感じております。

私が思うデザインの重要な点は、「人がどう感じのかを大切にすること」です。内容や物そのものの価値以上に、デザインひとつでブランドイメージは高まり、知名度が広がります。人々が「手に入れたい」「デザイナーに依頼したい」と感じる。デザインには、そんな無限の可能性があります。

京都デザイン賞では、毎回多様なジャンルから集う作品のデザイン性とその可能性に触れられ、個人的にも楽しみながら審査に臨みました。

今年は万博の話題が次第に全国に広がり、圧倒的なスケールの大屋根リングは真夏の日陰となり、多くの人を楽しませてくれました。壮大な構造の中に人々を包み込む力があり、ランドスケープ表現の可能性を感じます。

第6部門では、建築において切り離せない外部空間との調和とバランスが重要です。

入賞には至らなかったものの、ローム株式会社本館はランドスケープを重視する姿勢が印象的でした。今後は、生態系や周辺環境にも配慮した作品がさらに増えていくことを期待しています。

A w a r d 2 0 2 5

新井清一

建築家／ARAI ARCHITECTS 代表取締役
京都精華大学 名誉教授

滝口洋子

ファッションデザイナー／京都市立芸術大学 教授

京都デザイン賞建築関連部門では、規模、領域、さらには用途も千差万別でありながらも、何が重要なコンセプトなのかを表記し、そしてそれらを現実の空間として実現されている力作が多数見受けられました。

他方、京都デザイン賞の特色は何と云っても、他部門の作品群が、同じ審査の机上に於いて選出される事にあります。その意味で、審査には面白みもあり、また反面審査での基準をしっかり持たずとしての評価は難しいともいえます。選考された作品群からの選出には独創性、素材、環境が関連する相関性を基準として審査にあたりました。

大賞を受賞した「2025年日本国際博覧会大屋根リング」の魅力は、京都の清水寺の舞台に代表される木材を、貫接合造りで組み上げたモニュメント的な存在感です。

「越後町の家-路地を抜く家」に於いての主題は、既存の条件を活かしながら京町家の持つ特性である路地、光庭を再構築し、組み込んだ新旧コラージュされた点にありますが、意外に双方馴染んでいる空間が生まれています。

「軒先の用心棒」「ORDER」も目に止まりました。

「未来を見つめ柔軟な思考と緻密な計画によって生み出されるもの」を京都的と定義し、そんな京都的発想のデザインを世界から見つけていこうと、新しい審査方法による京都デザイン賞が募集されました。データでの審査は今回が初めてで当初は心配もありましたが、一つ一つの作品について丁寧に協議を重ねることで十分な審査ができたのではと思います。

今年は部門によっての偏りが例年より大きく感じられました。第6部門の建築はこれまでからパネル審査であったため応募者に戸惑いがなく素晴らしい作品が揃いましたが、第2、第3部門は実物を出さないプレゼンテーションに苦労されていたようです。その中で「Gaitta よなぬき」や「革帯 おみな」「極もふ歯ブラシ」は素材感やコンセプト、ものづくりの姿勢がよく伝わり評価されました。

「柔軟な思考・新しいデザインの創出」をテーマに、大屋根リングから小さいプロダクトまでが同じ土俵で審査されることや、ジャンルを超えて全員での協議がこのデザイン賞のユニークで魅力ある点だと思います。

次年度も京都的発想のデザインが広く世界から集まり、このアワードが進化を続けることと期待しております。

Kyoto Design

中島信也

CM演出家／武蔵野美術大学客員教授
なかじましんやオフィス代表
株式会社東北新社アドバイザー

村田智明

株式会社ハーズ実験デザイン研究所代表取締役
公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会理事長
一般財団法人大阪デザインセンター理事
大阪公立大学研究推進機構協創研究センター客員教授
WIDA世界工業デザイン協会副会長

京都デザイン賞。それは京都の、デザインの、賞です。優れたデザインはとても大きな力を發揮します。たとえば「住みやすさを作る」、「使いやすくする」といった力。それに加えてデザインには「人の心を豊かにする力」があると思うんです。それは「美しさ」による力です。

この「美しさ」を1200年以上に渡り磨き上げてきた京都。この歴史の上に全く新しい「美しさ」を構築し続けている京都。まさにこれは京都デザイン賞の評価軸です。

大賞の「ADASHINO HOUSE」シンボルマークが核となって、空間を結びつけ、美しいブランドを構築しています。「大屋根リング」も京都の伝統建築の創意と美しさへの尊敬の上に成し遂げられたプロジェクトでした。

人間の心を豊かにする京都デザイン。今回奇しくも大賞、知事賞、市長賞、商工会議所会頭賞、京都新聞賞、の受賞作品全てが英語を伴った作品名。これは京都デザインがこれから進む道筋を示唆しているのではないでしょうか。世界中の人の心を豊かにできる、京都が磨き上げてきた「美」の力。京都デザイン賞は新しいステージに突入したのでは、というときめきを感じています。

今回の受賞作は、伝統的な美意識と技術が、単なる懐古趣味ではなく、新たな経験創出のために活かされている点に可能性を感じた。

大賞のADASHINO HOUSEは、美しい若松笠のブランドマークを中心に経験価値で再構築したトータルプランディングが、改装された町屋とうまく調和している。京都商工会議所会頭賞のChudy Stoolは、曲木技術によるミニマルな構造と、広幅座面による快適性を両立した「機能美」の秀作。町屋にも合うモダン家具として市場展開が期待できる。

KeDDii ALPHA賞のご縁を結ぶカフェの看板は、伝統的な水引の結びでの「人と人をつなぐ物語性」で一点ものが持つ価値を昇華させている。

入選した重ねる京都府マップは、デジタル時代に敢えてアナログな操作を許容し、情報の関わりを直感的に発見させるUXデザインだ。

入選した撫で牛しおりは、北野天満宮のモチーフに「学問=読書」という精神的価値を付加。単なるプロダクトを超え、ユーザーのWillを喚起させている。

Award 2025

部門	作品名	応募者
大賞	第1部門(グラフィック他) ADASHINO HOUSE ブランドデザイン	中田 泉
大賞	第6部門(建築) 2025年日本国際博覧会 大屋根リング	建築主:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 会場デザインプロデューサー:藤本 壮介 ランドスケープデザインディレクター:忽那 裕樹 照明デザインディレクター:東海林 弘靖 基本設計:東畑・梓設計共同企業体 実施設計・監理:(北東工区):株式会社大林組 (南東工区):清水建設株式会社 (西工区):株式会社竹中工務店
京都府知事賞	第6部門(建築) ヒルトン京都	建築設計:竹中工務店 内装設計:(パブリック、客室)橋本タ紀夫デザインスタジオ 内装設計:(基本計画、ルーフトップバー)竹中工務店
京都市長賞	第6部門(建築) SUMUFUMU TERRACE kyoto	積水ハウス株式会社 京都支店 株式会社クリエーター・アソシエーション『つながる』川道浩 久保恵子 京都アンプリチュード
京都商工会議所会頭賞	第3部門(プロダクト他) Chudy stool	bendi-BANGKOK
京都新聞賞	第3部門(プロダクト他) イーブレミアムワイド 歯ブラシ「極もふ」	永野 浩太郎(e株式会社)
伏見の清酒・都鶴賞	第4部門(都鶴) みやこつる【鏡鶴】	浅田 真優(帝塚山大学)
京とうふ藤野賞	第4部門(藤野とうふ) お塔腐	大畠 杏果(嵯峨美術短期大学)
和文具賞	第4部門(和文具) 京の電統鉛筆削り	大西 隼平(専門学校アートカレッジ神戸)
KeDDii ALPHA 賞	第4部門(金属組み合せ) ご縁を結ぶカフェの看板	谷川 いろは(帝塚山大学)
学生賞(画箋堂賞)	第1部門(グラフィック他) 軒先の用心棒	北野 翠れん(嵯峨美術短期大学)

※くろちく賞(第4部門)は該当がありませんでした

入選	第1部門(グラフィック他) Order	神 史喜(嵯峨美術短期大学)
入選	第1部門(グラフィック他) かさねる京都府マップ	小池 結子(嵯峨美術短期大学)
入選	第2部門(ファッショニ他) Gaitta よなぬき	吉靴房 野島 孝介
入選	第2部門(ファッショニ他) 革帯 おみな	高家 はるか(SOU・SOU)
入選	第3部門(金属組み合せ) アルミの組子ランプ 「ASANOHA」	コアマシナリー株式会社
入選	第3部門(プロダクト他) miko counter chair	bendi-BANGKOK
入選	第3部門(プロダクト他) 扇暖簾(おうぎのれん)	川畠 健人(THE NORENMAKER)
入選	第3部門(プロダクト他) しげたに蚊ぼちゃ	櫻本 美胡(嵯峨美術短期大学)
入選	第3部門(プロダクト他) 撫牛しおり	伊藤 彩乃(嵯峨美術短期大学)
入選	第4部門(都鶴) 都鶴	杉浦 三緒(帝塚山大学)
入選	第4部門(都鶴) 都鶴	古野 令奈(帝塚山大学)
入選	第4部門(京とうふ) 京とうふ藤野 お抹茶豆腐	菊屋 歩里(専門学校アートカレッジ神戸)
入選	第5部門(映像) 友禅模様アニメーション	水野 開斗(株式会社シフ)
入選	第6部門(建築) 出水の家	奥野 八十八(株式会社アトリエ・ブリコラージュ級建築士事務所)
入選	第6部門(建築) 越後町の家 -路地を抜く家-	川上 聰・Rafael A. Balboa(川上聰建築設計事務所)
入選	第6部門(建築) 武者小路町の共同住宅	池井 健(株式会社池井健建築設計事務所)

ADASHINO HOUSE ブランドデザイン

中田 泉

尚雅堂の精神を継承しつつ、京都・化野に開かれた新拠点「ADASHINO HOUSE」のために制作したロゴ。

尚雅堂の既存ロゴ(左)は「若松」のモチーフを基軸とし、格式・和の象徴性を表現しているのに対し、新ロゴ(右)は「若松笠」をモチーフとし、生命力・成長・再生の象徴としました。ブランドの一貫性を保ちつつ静けさ・品格・現代性を兼ね備えた表現に仕上げました。

書体(ロゴタイプ)の選定理由

ロゴタイプには優雅で古典的ながらもモダンな印象を与えるPerpetuaを選定。Perpetuaの持つ時代を超越した(Timeless)美しさは、タグライン「Timeless Japanese Craft」にふさわしい凛とした品格を表現しています。新ロゴマーク(若松笠)と組み合わされることで、静謐さの中にも現代性が宿るブランドの佇まいを確立しました。



2 ADASHINO HOUSE LOGOtype & LOGOmark | ロゴタイプ・ロゴマーク

尚雅堂の精神を継承しつつ、京都・化野に開かれた新拠点「ADASHINO HOUSE」のために制作したロゴ。

尚雅堂の既存ロゴ(左)は「若松」のモチーフを基軸とし、格式・和の象徴性を表現しているのに対し、新ロゴ(右)は「若松笠」をモチーフとし、生命力・成長・再生の象徴としました。ブランドの一貫性を保ちつつ静けさ・品格・現代性を兼ね備えた表現に仕上げました。

書体(ロゴタイプ)の選定理由

ロゴタイプには優雅で古典的ながらもモダンな印象を与えるPerpetuaを選定。Perpetuaの持つ時代を超越した(Timeless)美しさは、タグライン「Timeless Japanese Craft」にふさわしい凛とした品格を表現しています。新ロゴマーク(若松笠)と組み合わされることで、静謐さの中にも現代性が宿るブランドの佇まいを確立しました。



SHOGADO

ADASHINO
HOUSE

2025年日本国際博覧会 大屋根リング

建築主:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
会場デザインプロデューサー:藤本 壮介
ランドスケープデザインディレクター:忽那 裕樹
照明デザインディレクター:東海林 弘靖
基本設計:東畠・梓設計共同企業体
実施設計・監理:(北東工区):株式会社大林組
(南東工区):清水建設株式会社
(西工区):株式会社竹中工務店

「多様でありながら、ひとつ」

大屋根リングは世界最大の木造建築物です。内周直径約616m、外周直径約674m、幅約30m、全長約2kmにわたる圧倒的なスケールの木空間は、会場全体をつなぐ回遊動線となっており、日本建築における伝統的な

木文化を表象する柱と梁による木架構により、世界中から万博に訪れる人々を迎えます。また、会場内の多様な場所性・活動・人を受入れ、それを結び付ける建築として「多様でありながら、ひとつ」という大阪・関西万博の理念を表わすシンボルとなる建築物になります。



大阪・関西万博 大屋根リング
～伝統的木造文化の継承とアップデート～

伝統的木造文化の継承

伝統的木造文化を表象する柱・梁のシンプルな構成の接合部には、京都の清水寺の舞台に代表される「貫接合(ぬませつごう)」を採用し、これを現代の技術でアップデートする事で、高い耐震性能を確保しています。重要な柱大な木接合は、柱・梁・檻(くさび)のみで構成した貫接合本来のプリミティブな美しさを尊重し、圧倒的なスケールの木空間を洗練された美しい表現として実現しています。

また貫接合は必要な強度を確保しながら、梁を外すことで接合部を比較的容易に解体できる機構とし、「つくりやすく・解体・リユースしやすい」架構としています。



京都府知事賞 第6部門(建築)

ヒルトン京都

建築設計:竹中工務店

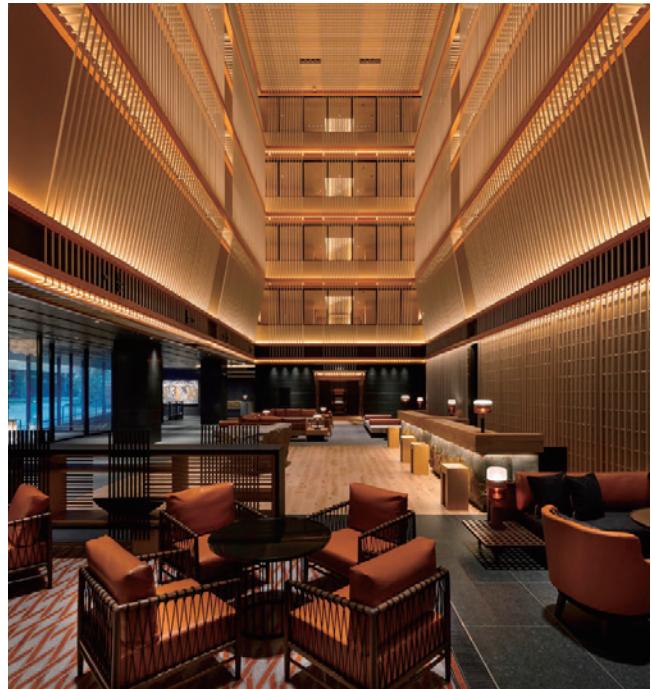
内装設計:(パブリック、客室)橋本タ紀夫デザインスタジオ

内装設計:(基本計画、ルーフトップバー)竹中工務店

世界が交差するホテル:都市の活気と京都の悠久の遺産が出会う場所

このプロジェクトの敷地は、西側に河原町通、東側に鴨川と高瀬川が流れる特徴的な環境に位置しています。河原町エリアは観光客と地元の人々で賑わう活気ある歓楽街を形成しています。対照的に、敷地の東側にはこれらの水路があり、さらにその先には東山の山並みが広がり、京都の都市化された地域と自然景観、そして伝統的な街並みが融合した環境に囲まれています。この対比は、現代的な都市の活力と時を超えた文化的景観の両方に関わる魅力的な機会を提供しています。

ホテルコンセプト「京都SYNAPSE」は、神経回路が交差するように、ゲストと京都の歴史と現代、伝統と革新を結びつけるために開発されました。このホテルは都市の多面的な魅力を発見するための架け橋として機能します。施設全体を通して、素材や工芸技術から空間配置や照明まで、伝統的な要素が現代的なデザインで再解釈され、ゲストを京都の豊かな文化的背景と深いレベルで結びつけています。建物内に立体的に重ねられた庭と周囲の景観は、四季の変化とともに移り変わります。様々な劇的かつ繊細な仕草と空間体験を通して、ホテルは訪れるたびに都市について新たな視点を発見し再訪したくなるような、記憶に残るひとときを創出しています。



京都市長賞 第6部門(建築)

SUMUFUMU TERRACE kyoto

積水ハウス株式会社 京都支店

株式会社クリエーターアソシエーション『つながる』 川道 浩 久保 恵子

京都アンプリチュード

SUMUFUMU TERRACE KYOTO は京都の中心部にあり、多くの人に触れる立地にあります。周辺は街に閉ざしたビル群が建並ぶクローズの空間でしたが、情報発信基地としてこの施設は外部に開けた空間になるよう計画しました。新しいものと古いものが共存し再生、発展をしている京都で街並みを意識しながら、色気や温もり、落ち着き感のある空間をベースに、京都が積み重ねてきた時間の深みを取り込みたいと考えました。内部構成は大きく3つに分けて計画しました。入口付近にある多目的に使えるゆったりとしたラウンジ空間は壁面全周に格子を配し、嵐山の竹林をイメージさせるような非日常的な印象を与えます。視線を和らげながら外との境界をつくる格子は、好奇心を掻き立てる仕掛けとなります。中央に計画したソファやプランターは移動式とし、人数に合わせて多目的に活用できる空間としています。施設中央に位置するインヴィテーションスペースは受付としてロングカウンターを設け打ち合わせやセミナーの場として様々な説明の場になるような空間構成にしています。企業の顔となる場所になるため、カウンターとテーブルは高さを揃え、水平ラインを強調したデザインにしています。テーブルの素材や装飾のタイルは特別なものを選び、この施設の中心として考えました。施設一番奥にはプライベートラウンジを設け、大型モニターを設置して上質な空間を体感できる場所としました。京都ならではの素材を活かす事を意識し、西陣織や織物クロスを取り込いで伝統工芸と空間を一体的に提案をしました。外部に対して列柱の連続感を出すことで、奥行き感を持たせ、施設全体が細長く、全てのスペースが開口部に面しているので、屋外との緩衝帯として植栽を設け街路樹とリンクされることで、外と中を曖昧にして、街との繋がりを生み出しました。この場所が世界一幸せな「わが家」づくりの始るきっかけとして訪れて欲しい場所になってもらえる事を願い設計しました。



Chudy stool

bendi-BANGKOK

Design Concept

Chudy was born from the challenge of bending solid wood into the smallest possible curve.

It combines a minimalist and space-saving stool design concept with practical usability for everyday life.

With its thin, lightweight structure and easy portability, it is ideal for spaces where flexibility and mobility are essential

デザインコンセプト

Chudy は、「無垢材をできる限り小さな曲線に曲げる」という挑戦から始まりました。

ミニマルでシンプルなデザインと、省スペースを重視したスツールのコンセプトを融合させ、日常使いに適した使いやすさを追求しています。

フレームは細くて軽く、持ち運びもしやすいため、柔軟な空間づくりに最適です。

Chudy stool



challenge of bending
solid wood into the smallest .

イープレミアムワイド歯ブラシ「極もふ」

永野 浩太郎 (e株式会社)

あなたの歯に、ゆめごこち。

透き通るガラスのような洗練された美しいデザイン

白金ナノ溶液が浸透していることでウイルスの増殖を抑制

35000本の超極細毛で従来の歯ブラシとは違う磨き心地



みやこつる【鏡鶴】

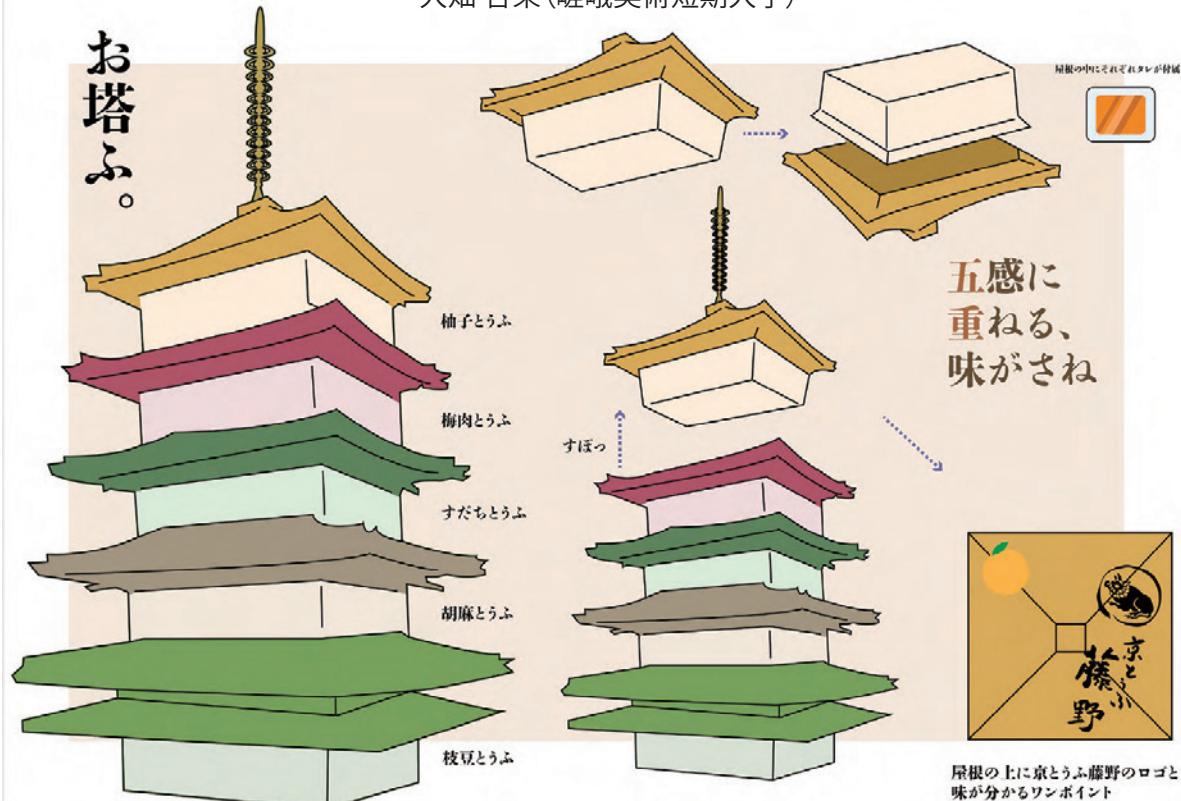
浅田 真優(帝塚山大学)

包みは、古の伝統を思わせる落ち着きをたたえています。
開けば、目の前に一転して清らかでさわやかな光景が広がります。
銀色の瓶に映る水面は静かに煌めき、そっと瓶を回すと、
鶴たちが天へ舞い上がるかのように姿を現します。
アナモルフォーシスという技法を使うことで、
敷き紙の柄が銀の瓶にふんわりと浮かびあがるようになっています。
敷き紙の代わりに、お気に入りの布や紙を敷いて、
自分だけの「みやこつる」を飾ってみるのもおすすめです。



お塔ふ

大畠 杏果(嵯峨美術短期大学)



和文具賞 第4部門(和文具)

京の電統鉛筆削り

大西 隼平(専門学校アートカレッジ神戸)

鉾をイメージした縦挿しの鉛筆削りです。

USB ケーブルを前側から挿して充電します。

頂上にある穴に鉛筆を挿することで削れます。

後ろ側の箱から溜まったゴミを取り出せます。



山をイメージした横挿しの鉛筆削りです。

USB ケーブルを後ろ側から挿して充電します。

前側にある穴に鉛筆を挿することで削れます。

前側の箱から溜まったゴミを取り出せます。



共通

鉛筆削りの他にシールも内包してあり、

本物に近いデザインはもちろん、

自分だけの山鉾を作ることもできます。

自分だけの「みやこつる」を飾ってみるのもおすすめです。



KeDDii ALPHA 賞 第4部門(金属組み合せ)

ご縁を結ぶカフェの看板

谷川 いろは(帝塚山大学)

水引の結びをモチーフにしたこの看板は、ただ店名を示すためのサインではなく人と店を、人と人をつなぐ“結び目”としてデザインしました。

伝統的な意匠を現代的な素材で表現することで、和の美しさとモダンな雰囲気を融合。訪れる人をやさしく迎え入れ、空間に物語と温かみを添える看板デザインです。



軒先の用心棒

北野 翠れん(嵯峨美術短期大学)

大都市の中で最も火災件数が少ない京都。
木造建築や文化財が多いからこそ防火意識が高く、軒先には常に綺麗な
水の入った防火バケツが多く並んでいる。
花の命が絶えないようこの習慣が何百年、何千年と続きますように……



Order

神 史喜(嵯峨美術短期大学)

Order In Kyoto, urban areas are provided building height restrictions.

Order Fushimi Inari Shrine is famous for the beautiful thousand vermilion torii gates.

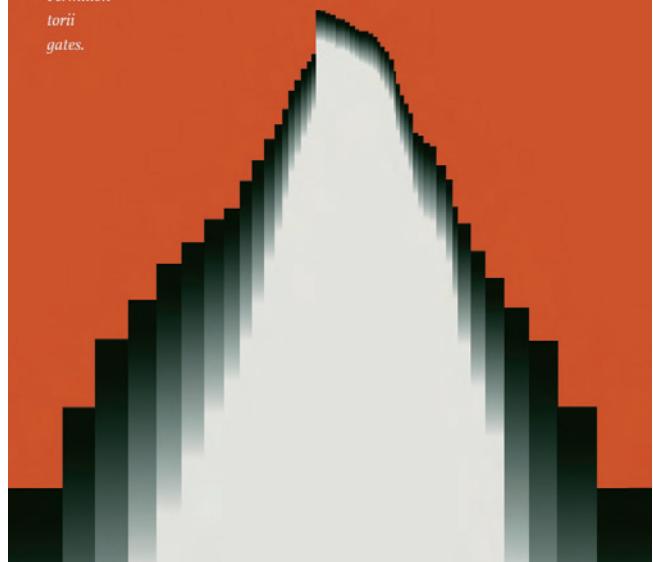
Order Kamogawa Delta is the location Kamo River and Takano River merge. And the terrain looks like delta, a greek alphabet. Stepping stones are placed with the purpose of stabilizing riverbed water recreation.

Order These days, in Kyoto, traffic jams often occur because of overtourism.

Order Wazuka Tea Plantation is the largest production region of Uji tea. The magnificent view spanning 600 hectares tells us beautifulness of landscapes and passion of farmers.

Order

*Fushimi
Inari
Shrine
is
famous
for
the
beautiful
thousands
of
vermilion
torii
gates.*



かさねる京都府マップ

小池 結子(嵯峨美術短期大学)

「かさねる京都府マップ」とは？

地形や人口など、京都府の情報を直感的に捉えられる、ブック型のツール。

「地形と人口の関係は？」「この川はどの市に流れてるの？」半透明のページをかさねると、いろんな情報が丸わかり。

複数の地図をまとめて見ることで、一見関係ないようなことも関わりが見えてくるかも！



Gaitta よなぬき

吉靴房 野島 孝介

本作品は、一本歯の下駄に足袋から着想を得たレザーのアッパーを組み合わせた新たなスタイルの革靴です。

日本の起伏の多い地形において、一本下駄は象徴的であると同時に、実用的な履物として長く親しまれてきました。

伝承では、天狗は傾斜の厳しい山々を一本下駄で軽やかに歩いたとされ神話的な背景も見られます。この機能性と神話性を再解釈し、日本の履物文化と革靴製作技術を掛け合わせることで、伝統とヨーロッパのフォーマルを融合させたデザインへと昇華しました。

作品名はgaitta。こちらは英語のgaitと日本語のgetaを掛け合わせて名付けました。

gaitは歩き方の速さや安定性、優雅さなど歩き方の多様性を表しています。また、日本語名としては「よなぬき」と名付けました。これは日本の伝統音楽に由来する名称で、独特の音階を指します。音楽におけるリズムや拍の感覚を歩行のリズムや身体の動きと重ね合わせました。



Gaitta
ゲイッタ

よなぬき

kyoto
kikkabo
吉靴房



革帯 おみな

高家 はるか (SOU・SOU)

SOU・SOU流の女性用ワンタッチ式革の半幅帯(はんはばおび)です。

マジックテープ+ベルトでとめる仕様で簡単に着付ができます。

しっかりした厚手の牛革を使用。腰をきっちとホールドしてくれます。

半幅帯とは…

袋帯や名古屋帯の通常の幅(約36cm)の半分程度の幅(約15~18cm)で作られた、カジュアルな細帯のこと



入選 第3部門(金属組み合せ)

アルミの組子ランプ「ASANOHA」

コアマシナリー株式会社

先端工芸

伝統産業と先端産業が共存する京都のものづくり企業2社が、日本の伝統工芸と先産業を支える技術を掛け合わせて新しい価値を創り出す。

組子細工と金属精密加工

906個のアルミニウム合金製の部材で構成されたシェードは、木の組子細工と同じように組み立てられています。このシェードには、ネジや溶接、接着剤などの接合は一切無く、部材同士が押し合う力の均衡とミクロン単位の嵌め合わせによってその形状を保っています。これらの部材は先端産業で使われている金属の精密加工技術で作られており、その精度は±1/1000ミリメートル単位です。木材と比べて金属は変形しにくい素材であるため、手による微調整が困難です。そのため、予め高精度に仕上げた11種類の部材を一つひとつ組み合わせて完成させます。部材を何度も組み替えて反りや歪を解消し、漸く緻密な幾何学模様が姿を現します。また、構成部品の90%は産業機械部品の製造過程で生じた端材や不良品から取り出しています。

黒谷和紙とレジン

光を温かく拡散する和紙は、京都府綾部市の黒谷和紙。それを覆うレジンは、近年、従来の接着剤としての用途ではなく、アクセサリーやアートに活用され始めた新技術です。紙や布、金箔などを封入し、今までに無い新たな価値観を提案することができます。円筒の拡散板と円盤の土台は、それぞれ独自の工法で加工しており、黒谷和紙らしさを残した表現を確立しています。拡散板には和紙の繊維がくっきりと見え、土台のレジンには和紙の素材である「楮(こうぞ)」が含まれており、中で楮が浮遊しているように見えます。



入選 第3部門(プロダクト他)

miko counter chair

bendi-BANGKOK

Design Concept

This chair is a wooden piece of furniture characterized by its gently curved frame. It is designed without sharp edges, offering both a refined appearance and a comfortable sitting experience. The name "Miko" is derived from the Japanese word "巫女," meaning a female priestess in traditional rituals. We chose this name to reflect an object with a specific functional role, similar to ritual tools combining utility with graceful aesthetics.

We refined the proportions to suit counter-height use while maintaining an elegant and lightweight appearance. At the same time, the chair provides solid stability, and the thoughtfully balanced footrest enhances comfort and supports natural sitting posture at

デザインコンセプト

a higher level.この椅子は、丸みを帯びた柔らかな木製フレーム椅子です。鋭角な縁のない形で、洗練された印象と快適な座り心地を提供します。

「Miko」という名前は、日本の神事に登場する“巫女”に由来しています。神事に使用する道具の様な、機能的でありながら魅力的な物として名づけました。

カウンターハイトでの使用に適したプロポーションへと調整し、優雅さと軽やかさを保ちながら安定性も確保しました。バランスよく設計されたフットレストが快適さを高め、高い位置での自然な着座姿勢をしっかりとサポートします。



入選 第3部門(プロダクト他)

扇暖簾(おうぎのれん)

川畠 健人 (THE NORENMAKER)

暖簾は古来より日本の暮らしや商いの場に寄り添い、人々を迎えてきた象徴的な存在です。その形に新たな可能性を見出し、扇の曲線を取り入れた「扇暖簾」を発案しました。

暖簾と扇はいずれも古くから京都にゆかりの深いモチーフであり、扇暖簾の思想は、古都・京都が培ってきた「伝統を守りながら革新を生み出す精神」と深く響き合うものだと感じました。そして、本アワードのテーマである「京都的発想」と強い親和性を持つと考え、今回の応募に至りました。

コンセプト

扇暖簾は、千年以上続いてきた暖簾文化を再解釈し、新たな選択肢を提案するデザインです。暖簾は人と場をつなぐ最初の接点であり、そのデザインは心理的な印象を左右するのではないかと考えます。

直線的な四角形ではなく、扇のよう広がる半円を取り入れることで、閉ざすのではなく迎える。遮るのではなく、包み込む。

空間に柔らかな開放感を生み、柔らかな形が人の無意識に語りかけます。

「人と空間をつなぐ境界」をコンセプトに、暖簾文化を継承しながらも、新たな選択肢として提案します。

デザイン背景

暖簾は長く日本の商いや暮らしを象徴してきましたが、その直線的な形状は機能的である一方、多様化した社会においては「閉ざされた印象」を与えることもあると感じます。現代においては、より開かれた入口のあり方が求められているのではないかと考えます。



入選 第3部門(プロダクト他)

しきがたに蚊ぼちや

櫻本 美胡 (嵯峨美術短期大学)

京野菜の「鹿ヶ谷かぼちゃ」を模した蚊取り線香スタンドです。かぼちゃのぼてっと重みのあるフォルムで線香を支えて、蚊を「ぼちやっ」と落してくれます。



入選 第3部門(プロダクト他)

撫牛しおり

伊藤 彩乃(嵯峨美術短期大学)

学問の神様 菅原道真公お使いの牛をモチーフにしたしおりです
尻尾は飛梅をイメージしたデザインになっています
学問の神様の御利益にあやかって本を読んでみるのはいかがでしょうか?



撫牛しおり

学問の神様 菅原道真公お使いの牛をモチーフにしたしおりです
尻尾は飛梅をイメージしたデザインになっています
学問の神様の御利益にあやかって本を読んでみるのはいかがでしょうか?



入選 第4部門(都鶴)

都鶴

杉浦 三緒(帝塚山大学)

古より湧き続ける、やわらかな名水。
その清らかさを、青海波の意匠に託し、
織細さと、静けさを表現いたしました。
折り鶴が、ひとつ、またひとつ——
静かに舞うようにあしらいました。
波の模様の奥から、ふと姿を見せる、
すらりとしたボトルのシルエット。
目で味わい、手で感じ、
そして、心に残るひとときを。
都鶴——伝統と美意識が、ここに。



入選 第4部門(都鶴)

都鶴

古野 令奈(帝塚山大学)

日本の美意識と自然の気高さを
映し出し、鶴の羽ばたきの美しさ
を表現しています。

瓶そのものを鶴に見立て、帯をと
ると羽が華麗に広がります。
開けた瞬間に驚きと感動を体験で
き余韻も楽しむことができます。
しなやかさと気品、上品さを兼ね
備えたデザインです。



入選 第4部門(京とうふ)

京とうふ藤野 お抹茶豆腐

菊屋 歩里(専門学校アートカレッジ神戸)

京都の代表的な伝統工芸品、京焼の茶碗と
京都の宇治茶を利用した
豆腐のパッケージデザインを行いました。

京都らしく麗らかに
京焼の地位を確立した野々村仁清のたくさんの作品
の中から色絵菊文茶碗をイメージして制作しました。
数ある茶碗の中から色絵菊文茶碗を選んだ理由は
色絵菊文茶碗が制作された意図には「人目を魅了する」
策を狙っていたと言われているからです。
まさに京都らしいパッケージとお茶と豆腐のコラボ
レーションが人目を魅了するのではないかと考えま
した。

パッケージイメージ
こちらの商品には専用のプラスチック製の茶筅も
入っており、豆腐をよくかき混ぜてお召し上がりいた
だく商品となっております。

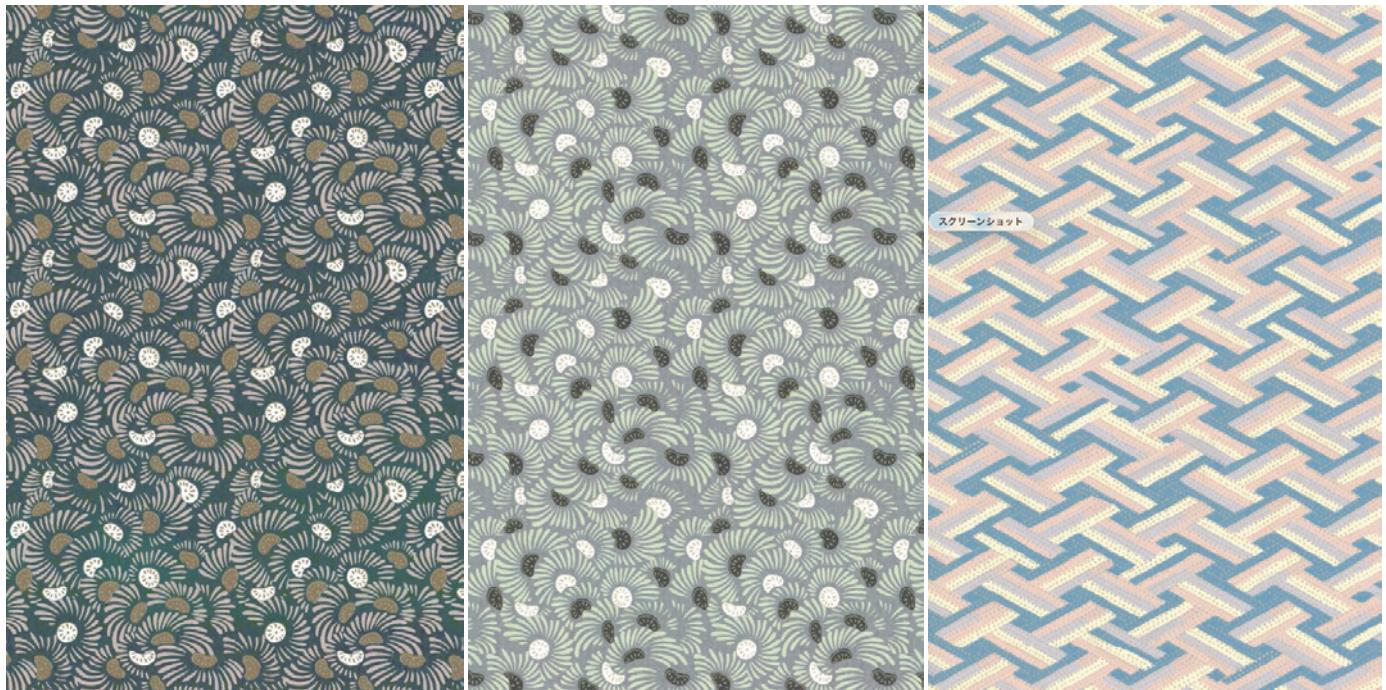
お抹茶豆腐絵お混ぜるといった場面は実際にお茶を
点てる様子と一致して本来の抹茶に近づけるような
商品にしました。



入選 第5部門(映像)

友禅模様アニメーション

水野 開斗(株式会社シフ)



入選 第6部門(建築)

出水の家

奥野 八十八(株式会社アトリエ・ブリコラージュ一級建築士事務所)

出水の家／小さな庭の連なりと暮らす市中の山居

京都の街なかに建つ夫婦2人のための住宅です。昔から職住が近接するこの地域を象徴するかのように、敷地の周囲には戸建て住宅やマンション、倉庫や事務所が隙間なく建ち並び、とりとめのない景観となっていました。なかでも南隣の事務所と西隣の5階建てのマンションとの関係は、明るく開放的な住まいというご要望に応える上で、一番の課題であることは明らかでした。

すべての部屋が庭に面する間取り

まず最初に、すべての部屋が庭に面するように、東西に細長い敷地をさらに細長くふたつに分けて、南側を庭に、北側を建物にすることにしました。そして、そのままだと大きな空間を取りたい居間・食堂が収まらないので、そのボリュームだけ南側の庭に張り出することにしました。こうすることで、居間は東西ふたつの庭に囲まれて明るく風通しも良くなり、南向きに窓を開けずに済んだので南隣の事務所から覗かれることがなくなりました。

また、このボリュームを思い切って1.5階建てくらいの高さまで背を伸ばして、屋根の上に設けた高窓からも自然光を取り込めるようにしました。

次に、必要な部屋を順番に並べていくと、平屋では収まりきらなかったので、建物全体の半分くらいを2階建てにする必要が出てきました。ここで、この2階建て部分を敷地の奥、5階建てのマンションに接する西側に持ってくることで、マンションの5階から見下されることがあっても、こちらの2階の屋根が見えるだけで、南側の庭や1.5階建ての居間・食堂の大きな窓が覗かれる心配がなくなりました。それとともに、おもての道路側は平屋になるので、北側にお住まいのお隣さんの採光も妨げませんし、控えめで品の良い構え方になりました。



入選 第6部門(建築)

越後町の家 -路地を抜く家 -

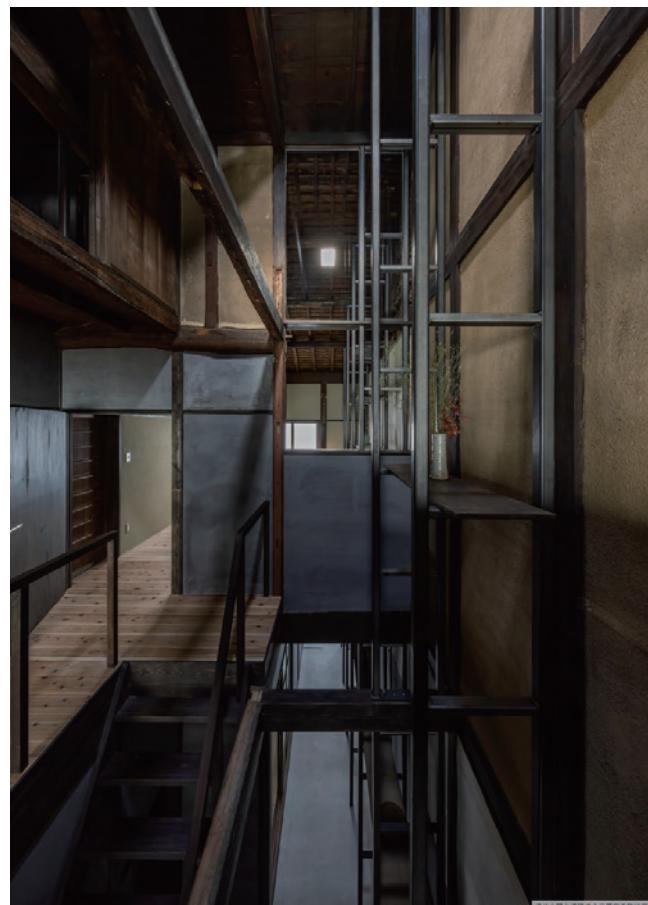
川上 聰・Rafael A. Balboa (川上聰建築設計事務所)

京都市中京区越後町に位置する町家を改修し

海外在住の芸術家の拠点とするためのプロジェクト。

敷地は六角通に面しており、堀川通と油小路通の間の多くの路地や小路に囲まれた地区にある。通りにではなく路地に面した家も多いなか、偶然にもこの家の通り庭は六角通り向かいの細い路地の延長線上に位置していた。そこで、この計画では、通り庭を分散していた既存の間仕切り壁を撤去し北側の通りから奥庭までの動線を一直線に繋ぎ、光と風が抜ける通り土間とした。奥の庭は作業場へと続き、東隣の路地と鉄扉で繋がる。これらの周辺環境のみちの空間体験を建築内部にも引き込むことで「町」と「家」の境界のようなものを取り除こうと考えた。

「町」の中に「家」があるのではなく、「家」の中でも「町」の存在や空気を感じることができるように意図した。通り土間沿いに設けられた鉄製の梯子状フレームは、間仕切り壁を撤去した既存の木造に対しての水平耐力を補う柔らかい構造補強として屋根まで達している。この梯子状フレームに既存の床板の古材を自由に配置することで違い棚として使うこともできる。伝統的な京都の町家は、外に対し閉じて別世界を作り出しているがこの建築では、周辺の道と一続きとなった路地奥のような「町」と「家」が混じりあつた新しい空間の在り方を提案した。



入選 第6部門(建築)

武者小路町の共同住宅

池井 健(株式会社池井健建築設計事務所)

設計趣旨

現代における京都の共同住宅には、景観条例等の要求もあって1、2階と最上階に庇を付けているものが多く見られる。

しかし、そもそも町家には4～5階建というものは存在せず、1～2階間の庇の間隔も厨子ニ階や元々の階高が低いこともあり、現代の共同住宅の1～2階の庇間隔よりも狭い。また、京都らしさの演出として、外壁に格子を表層的に貼り付けたデザインも多く見られるが、そもそも町家における格子は人通りの多い道と屋内空間との視覚的緩衝材として開発されたものであり、開口部でない場所に取り付けるものではなかった。結果、現代の京都ではバルコニー付の間延びした外壁に記号的に扱われた庇や格子を用いるデザインが多く見られ、伝統的スケールと現代における与件の軽合性が取れないままに街並みが形成されつつある。

本プロジェクトの敷地は2面道路に面しており且つ片方の道幅が大きく開けている立地であるためファサードが街並みに与える影響は特に大きい。

以上を踏まえて、4階建ではあるものの条例を遵守したうえで本来の京都らしいデザインを取り込みつつ良質でアイコニックな外観となるよう注力して設計した。具体的には、江戸時代から明治時代の伝統的な京町家に見られる庇と庇の間隔を踏襲して17口アたり2枚の庇を取り付け、出幅を変えることでその陰影にリズムを持たせつつ、外壁保護の強化と夏場の日射によるコンクリートの温度上昇を抑えることを実現した。また、本来の機能である外部と内部とのインターフェイスとして道路際の全ての開口部に格子を取り付け、視線と日射の制御、通風を両立させた。更に、1階の住戸の開口部が道路と近いことに配慮して、格子に加えて犬矢来を取り付けることで通行人と居室との間に物理的な距離を確保した。エントランスアプローチには、隣地との間の既存柵を利用して京都の伝統的な路地のスケールを持たせた。景観条例等の規制もあって京都の要素が記号的に扱われるが散見される現代の京都において、そうした要素をできるだけ本来のなかたちで共同住宅に適用することを目指して設計した。



京都デザイン賞 2025 開催概要

京都デザイン賞開催趣旨

京都的発想のデザインを見つけたい

かつて京都は都であり1200年以上長きに亘り都市であり続けました。このような都市は世界的にも稀有で京都だけといつても過言ではありません。しかし、その歴史や伝統に甘んじることなく、つねに最先端を追求し、先進や革新を重んじてきました。だから私たちは、未来を見つめ柔軟な思考と緻密な計画によって生みだされるものを京都的と定義しました。そんな京都的発想のデザインを世界中から見つけていきたいと思います。

京都的発想とは？

革新的であり、計画的であり、柔軟な思考によって生みだされるもの……。京都は、伝統的なイメージで捉えられがちですが、実際には、つねに先進と革新を非常に重視してきた都市です。

大規模な疏水、水力発電所、路面電車など、多くの日本初を生み出してきました。それらは、斬新で緻密な発想により、計画・設計されたものばかりです。しかも、京都の町自体が広大な湿地帯を埋め立て、壮大で柔軟な発想による都市計画によってつくられていたのです。そんな京都的発想や思考を大切にしたデザインを見つけて出することを京都デザイン賞のコンセプトとしました。

募集部門

- 第1部門 グラフィックデザイン・パッケージデザイン
第2部門 ファッションデザイン・テキスタイルデザイン・キモノ
第3部門 プロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン
第4部門 課題によるデザイン提案
　課題① 伏見の清酒「都鶴」ラベル・パッケージデザイン
　課題② 「京とうふ藤野」パッケージデザイン
　課題③ 新しい京の和文具提案
　課題④ 布素材を使った小物のデザイン
　課題⑤ 金属板を組み合わせてできる商品のデザイン
第5部門 映像
第6部門 建築関連デザイン
　① 建築デザイン
　② インテリアデザイン
　③ 造園／環境デザイン

応募資格

すべての法人・団体・個人(国籍・居住地を問わず国内外において活動される外国人も含む) 年齢制限もありません

応募基準

- ◆ 京都的発想のイメージを創出している。
- ◆ 柔軟な思考・独創性がある。
- ◆ 使いやすい配慮がなされている。
- ◆ 新しい素材、技術に挑戦している。
- ◆ 環境への配慮がなされている。　※すべてに当てはまらなくても可

審査委員

ゲスト審査委員

- 新井清一 建築家／ARAI ARCHITECTS 代表取締役
京都精華大学 名誉教授
滝口洋子 ファッションデザイナー／京都市立芸術大学 教授
中島信也 CM 演出家／武蔵野美術大学 客員教授
なかじましんやオフィス 代表
村田智明 株式会社東北新社 アドバイザー
株式会社ハーズ実験デザイン研究所 代表取締役
公益社団法人 日本インダストリアルデザイン協会 理事長
一般財団法人 大阪デザインセンター 理事
大阪公立大学 研究推進機構協創研究センター 客員教授
WIDA 世界工業デザイン協会 副会長

協会審査員

- 木原三郎 公益社団法人 京都デザイン協会 理事
株式会社 TAKAYASU 取締役 クリエイティブディレクター
統括審査委員長
住谷晃也 公益社団法人 京都デザイン協会 理事
造園家／株式会社 杉景 代表

公益社団法人 京都デザイン協会 正会員

特別会員 特別賛助会員 賛助会員

募集期間

2025年8月30日(土)～9月30日(火)

応募総数

112点

審査

1次審査 10月1日(水)～10月15日(水)

2次審査 11月1日(土)～11月8日(土)

審査結果

入賞……11点　入選……16点

授賞式・作品講評会

授賞式・作品講評会：11月22日(土)14時～17時

京都府庁旧本館正庁・旧議場

交流会

交流会：11月22日(土)18時30分～20時30分

しょうざんリゾート京都 中華料理「楼蘭」

K y o t o

D e s i g n

京都デザイン賞 2025を支えていただいたみなさまに感謝します

■後援

京都府
京都市
京都商工会議所
(公財) 京都産業21
京都府中小企業団体中央会
京都新聞
KBS京都
NHK京都放送局
エフエム京都

■協力

有限会社画箋堂
ギャラリー富小路
京とうふ藤野株式会社
京都芸術家国民健康保険組合
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学
株式会社くろちく
KeDDii ALPHA株式会社
株式会社尚雅堂
有限会社匠弘堂
株式会社半兵衛麩
都鶴酒造株式会社
ホルベイン画材株式会社

■特別賛助会員

有限会社中村清草園

■賛助会員

有限会社画箋堂
株式会社京都銀行
京都信用金庫
京都中央信用金庫
京都百貨店協会
KeDDii ALPHA株式会社
株式会社尚雅堂
株式会社パルテごとう

■協賛

京都芸術大学
医療法人奈良会 奈良皮膚科クリニック
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学
京都精華大学
刀剣 開陽堂
株式会社TAKAYASU
竹松健治
株式会社くろちく
アーバンホテルシステム株式会社
甍瓦技塾 徳舛瓦店有限会社
イワモトエンジニアリング株式会社
株式会社大西建築事務所
NPO法人京都西陣町屋スタジオ
紙布染の河合
C4ONE
株式会社JIJI
株式会社静好堂中島
鈴基工務店
株式会社アルク
ターナー色彩株式会社
有限会社ティアック
株式会社野崎
株式会社PALM一級建築士事務所

株式会社 フクナガ
株式会社中澤ホールディングス
万朵花
株式会社メディアインパクト
有限会社大進工務店
株式会社西川紙業
株式会社松下工房
株式会社三村建築板金
京榮薬品株式会社
有限会社アリアソシエイツ
株式会社エグザム
株式会社エヌ・ビー・エル

有限会社画箋堂
秀和株式会社
ディオニー株式会社
高橋びじゅー
秀創作所
加地金襴株式会社
まつもとクリニック



Award 2025



**See you again
at the Kyoto Design Awards
in 2026.**

